

(様式3)

自己評価及び外部評価結果

作成日 平成25年3月18日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0891700049		
法人名	株式会社 メディカルアシスト		
事業所名	グループホーム たんぽぽ	ユニット名	Aユニット
所在地	〒300-1525 茨城県取手市桜が丘1-17-13		
自己評価作成日	平成24年9月15日	評価結果 市町村受理日	平成25年3月15日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報 リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/08/index.php?action_kouhyou_detail_2011_022_kani=tr ue&JigyosyoCd=0891700049-00&PrefCd=08&VersionCd=022
-----------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	〒310-8586 水戸市千波町1918番地 茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成24年11月21日	評価確定日	平成25年2月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<p>当事業所は、地域との交流を大切にしている。毎年、近隣の小学校へ訪問して認知症についての理解や介護の仕事についての講義を行い、更に生徒が当事業所へ来所して利用者様と触れ合うことで認知症について理解してもらえる様にしている。</p> <p>その他、地域行事へも積極的に参加している。運営推進会議を通して、桜が丘自治会が主催する自主防災会の「防災・安心台帳」に加入し、災害時には地域の方々と協力ができる体制を整えている。また、桜が丘団地内にはいくつものボランティアがあるため、年に数回ホームへ来所して頂き、日本舞踊やハーモニカ演奏などをして下さっている。その他にも季節によっては地域の老人会の皆様と合同でクリスマス会を開催するなどして互いが楽しく過ごせる時間を作っている。</p> <p>家族交流会も定期的を開催して家族と利用者様が共に楽しめる時間が持てるようにしている。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>理念に「地域との積極的な交流」を一番に掲げ、利用者が地域の人々と楽しく交流ができるよう敬老会やクリスマス会を自治会と合同で催し、事業所を会場として提供している。</p> <p>自治会の清掃活動に利用者や職員と一緒に参加しているほか、管理者は近隣の小学校に出向いて認知症についての講義を行うなど、地域と協力関係を築きながら利用者が地域の一員として暮らせるよう努めている。</p> <p>職員からの意見や提案を代表者や管理者に相談できる体制が整っており、何事もすぐに対応して利用者が暮らしやすい環境づくりに力を入れている。</p>
--

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I 理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝、朝礼時に職員全体で基本理念を読み上げ、業務開始前に意識付をしている。又、ユニットごとの理念を作成し見やすい場所へ掲示し実践に努めている。	法人の理念を事務所に掲示し、毎朝のミーティング時に全職員で唱和するとともに、各ユニット毎に作成した地域密着型サービスの意義を踏まえた理念を居間に掲示し、職員は日々確認しながら共通認識のもと、実践につなげている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会へ加入し、除草作業や夏祭りなどの行事へ参加している。又、自治会には（自主防災会）が発足されているため、利用者の全員が加入し、災害時などには協力が得られるようにしている。 自治会主催の災害時訓練にも参加している。	自治会に加入し、利用者と職員で清掃活動や盆踊りなどの行事に参加しているほか、自治会と合同で行う敬老会やクリスマス会などの行事では、事業所を会場として提供するなど、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。 月2回から3回フラダンスや親父バンド、大正琴、カラオケなどのボランティアを受け入れ、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう支援している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣の小学校へ出向き認知症についての講義を行ったり、実際にホームへと来所して頂いて、利用者様と触れ合いの時間を持って理解して頂けるようにしている。			
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回運営推進会議を開催し、利用者様の生活状況を報告し、委員の皆様には実際の避難訓練へ参加して頂き、改善点などを伺いサービスの向上に努めている。	運営推進会議は家族等の代表や市職員である地域包括支援センター職員、自治会長、地区長、老人会会長、民生委員、ボランティア、管理者で2ヶ月に1回開催している。 昨年の運営推進会議の中で多くの参加者を得る会議にしようとして開催日を平日と休日を交互にする事を地域包括支援センター職員了承のもと全委員で決めたが、休日開催の運営推進会議には地域包括支援センター職員の参加は得られていない。 運営推進会議では管理者からの報告が中心となっていて、活発な会議内容とはなっていない。	運営推進会議に毎回市職員又は地域包括支援センター職員の参加が得られるよう再度全委員で開催日を話し合うことを提案する。 地域包括支援センター職員が運営推進会議に参加できない場合は代替りの市職員が参加することが望まれる。 活発な会議となるよう事前に委員に議題を知らせておくなどの工夫をし、サービスの向上に活かせるような運営推進会議になることを期待する。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	取手市地域密着型サービス連絡会で出た疑問点などを市の職員へ質問したり、意見交換をしている。又、地域包括支援センター職員と共に認知症サポーター養成講座を開催し、認知症が広く理解されるよう努力している。	管理者は市担当者を頻りに訪問し、事業所の実情やケアサービスの取組みを報告しながら情報交換をしている。 毎月1回市福祉課を訪問し、生活保護を受給している利用者の状況や金銭報告をしながら協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	当事業所は、目の前が公道で車の通りが激しく危険なため、家族へ事情を説明し、利用者様の安全のため施錠をしていますが、希望時にはいつでも開錠している。 又、定期的なカンファレンスを開催して、毎回、担当職員を換えて身体拘束について調べ発表する場を設け、理解を深めている。	身体拘束や行動制限を行わないことを契約書に明記している。 職員が順番に講師を務める身体拘束排除に向けた内部研修を実施し、職員は身体拘束の内容とその弊害を理解するとともに話し合い、共通認識を図りながら身体拘束をしないケアに努めている。 事業所前には車の往来が激しい公道があり、危険なため家族等の同意を得て玄関を施錠している。 玄関の解錠に向けて運営推進会議で定期的に話し合っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的な内部研修を開催し、虐待についての知識を深め、常に注意を払い虐待や身体拘束防止に努める。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	行政担当者から情報を頂き、必要である方は関係機関と話し合いのうえで活用できるよう支援している。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、パンフレット、重要事項説明書を用いてわかりやすく説明をし、理解と納得を頂いて契約をしている。不安な点や質問などはいつでも受け付けている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談窓口を設け、契約時に説明をし、面会時には日々の様子を伝えるようにしている。又、家族交流会時にも意見を伺い運営に反映している。	管理者や職員は日々の会話の中から利用者の意見や要望を聴くとともに、家族等の面会時や家族交流会で意見等を聴く機会を設けている。 家族等から職員の名前が判るようにしてほしいとの要望を受け、全職員で話し合い、出勤している職員の名前をホワイトボードに記載して玄関ホールに掲示するなど、出た意見や要望を反映させている。 前回の外部評価結果で家族アンケートの実施が課題となったが、12月に開催する家族交流会において家族アンケートを実施することとしており、準備を進めている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月カンファレンスを開催し、意見や提案が出来るようにしている。また、日々の申し送り時などでも職員の意見を聞き運営やケアに反映できるよう努めている。	管理者は月1回の定例会議で職員から意見や提案を聞く機会を設けているほか、いつでも職員から意見を聞くよう努めている。 代表者や管理者は職員から出た「現在使用している加湿器だけでなく、感染症対策のため除菌作用のある空気清浄機を購入してほしい」との提案や「風呂場と脱衣所の温度差をなくすため、エアコンを設置してほしい」との要望を受け、空気清浄機とエアコンを購入するなど、運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的に代表者を交えて内部研修を行い意見交換を行っている。又、職員が自己評価をする機会を年に数回設け、日々の業務に対する姿勢などを見つめる機会を設けている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的に内部研修を開催し、職員の知識を高めるよう努めている。外部研修は職員のレベルに合わせて参加するようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	取手市地域密着型サービス連絡会を開催し、他のグループホームや行政との情報交換の場を作り、サービスの質の向上に努めている。又、連絡会の中で事例検討などの勉強会を開催して職員同士の交流を図っている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に本人と会う機会を設けている。本人や家族からこれまでの状況を聞き、本人の思いや要望などを聞き取るように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に本人と会う機会を設けた際にはご家族にも同席してもらえるようにしている。その際、これまでの生活状況などを伺い、不安な思いや要望などを聞き取るように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居申し込み時に本人や家族より、相談内容を伺い思いや状況などを確認し、グループホーム以外のサービスへ繋げることが出来るようにしている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	自分で出来る事はなるべく自力でおこなってもらえるよう支援している。本人を尊重し、理解しながらそれぞれが出来る事を活かせるような環境作りに努めている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族交流会を通してご家族とのコミュニケーションを密に図っている。又、お便りにて利用者様の近況報告や日常生活の様子を伝えて理解して頂き、共に本人を支えている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の面会や外出・外泊するなどして、大切な人との関係が途切れないよう支援している。また、入居の際には使い慣れ馴染みの家具などの品々を持ち込んでいます。	職員は利用者との日々の会話や家族等の話から馴染みの人や場所を把握するとともに個人ファイルに記録して職員で共有し、関係が途切れないように支援している。 職員は利用者から馴染みの店に行きたいとの希望があった場合には付き添うなど、個別に対応している。 家族等の協力を得て利用者が以前住んでいた自宅に外泊したり、馴染みの飲食店などに継続して行けるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し、席順を見直したりしている。又、おやつ作りなどを開催して、互いに話しかけ協力しながら作業が出来るようにしている。常に目配り気配りをしてトラブルにならないよう配慮し、楽しく過ごせるよう心掛けている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了しても家族の気持ちに配慮しながら関係を継続して行けるようにし、相談事にも応じられるよう支援している。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の暮らしの中でその人らしく暮らしていけるよう言葉や表情・行動などを見逃さないよう日常の観察を行っている。	職員は日々の生活の中で利用者と会話を交わしたり、利用者の表情やつぶやきから思いや意向を把握している。 思いを表出できない利用者には入居時のアセスメントを活用したり、職員が日々の生活の中で利用者の興味のあるような話をしながら表情や反応を観察して思いを押し量るほか、家族等から話を聴いて職員で話し合ったり、管理者に相談しながら把握に努めている。 把握した思いや意向は朝礼時に全職員で共有するとともに、個人ファイルに記録している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	プライバシーに配慮しながら、本人や家族の方々から生活歴や今までの暮らし方などについての必要な情報を聞き取り把握する。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝・夕の申し送りで、日中・夜間帯の一人ひとりの状態を報告し、生活リズムや心身の状態を全職員が理解して把握できるよう努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員一人ひとりに担当してもらいモニタリングを行っている。介護計画書を作成する際に役立て、家族の意見や本人の状態が変化した際には随時見直しを行っている。	利用者の希望を聴いたり家族等の来訪時に意見や要望を聴き、介護計画に反映させている。 職員が毎月順番にモニタリングを行い、計画作成担当者と意見交換をしながら3ヶ月から6ヶ月毎に介護計画を見直すとともに、家族等の確認を得ている。 利用者の心身の状態に変化が生じた場合は、随時現状に即した介護計画に見直している。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録に日々の様子を個別に記入し、毎日、朝・夕の申し送りで報告し、職員が情報を共有している。この情報を基にケアカンファレンスを開催し、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況変化やニーズに合わせてケアプランの見直しを行っている。又、同法人のデイサービスと合同で納涼祭を企画、実行するなどして交流を図っている。その他にも自治会より、夏祭りへ招待して頂き積極的に地域行事などへ参加するようにしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域行事への参加や清掃作業を通じて、地域住民としての役割を持っている。又、地域住民の方々と合同でイベントを開催するなどして交流を図り一人ひとりの暮らしが楽しめるよう支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族と共にかかりつけ医に受診している方、職員が同行してかかりつけ医を受診する方、事業所の協力医療機関の往診を受けている方など定期的に受診できるようにしている。	契約時に利用者や家族等の意向を確認し、希望するかかりつけ医への受診を支援するとともに、協力医療機関への受診も支援している。 かかりつけ医への受診は家族等の付き添いを基本とし、受診結果は家族等から口頭で報告を受けている。 家族等が受診に付き添えない場合は、職員が同行して受診結果を家族等に報告している。 希望する利用者には月1回協力医療機関の医師による訪問診療を支援し、受診結果は家族等の面会時や電話で報告している。 週1回訪問看護事業所の看護師による健康チェックを利用者全員に行っている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問看護時に日頃の状況を説明し、助言や指示を頂いている。緊急時も電話で相談するなどして助言や指示を頂ける体制をとり支援している。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には本人のサマリーを提出して情報提供している。その後も面会時に情報交換をしている。職員へも随時経過報告をして情報を共有し、退院後の対応の変更などの意識付に努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重要事項説明書により、重度化した際の対応方針を説明している。状態の変化などは随時家族へ報告し、家族や主治医と相談して近隣の病院を受診したり、主治医が対応できるようにしている。	重要事項説明書に事業所の重度化対応指針を明記するとともに、契約時に利用者や家族等に説明して同意を得ているが、看取りはしない方針であることを明記するまでには至っていない。 重度化した場合は主治医と連携するとともに、提携している訪問看護事業所の看護師の協力で支援している。 重度化に向けた職員研修を実施するまでには至っていない。	看取りはしない方針であることを明文化し、利用者や家族等に説明するとともに、同意を得ることを期待する。 利用者の重度化に備えて全職員が対応できるよう研修を実施することを期待する。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	内部研修を通して応急手当や初期対応の訓練を行い、緊急時のマニュアルの整備を行っている。今後も定期的な勉強会を開催して冷静な行動と対応ができるような体制を整えている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を年2回実施し、消防設備や警報設備などの定期検査を実施している。又、地域で年1回開催される自主防災訓練にも参加し災害時に備えている。地域の方々や近隣住民の方々の協力が頂けるようにしている。	年2回消防署立会いのもと、夜間想定を含む避難訓練を地域住民や家族等の参加を得て実施している。 避難訓練後は管理者と職員で話し合い、反省点や今後の課題などを実施記録に残している。 火災を想定した避難訓練を実施しているが、地震や水害などの自然災害を想定した訓練は実施していない。 事業所内に非常用持ち出し袋や水などを用意しているが、食糧は事業所内に置き場所がないという理由で、近隣にある同一法人の通所介護事業所で備蓄している。	自然災害を想定した避難訓練を実施することを提案する。 食糧などの備蓄品は事業所敷地内に保管場所を確保し、事業所独自に保管することを期待する。

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりに合わせた言葉づかいや声掛けをして対応している。排泄の声掛けは耳元でするようにして、他の方に気付かれないよう心掛けている。居室へ入室する際にはノックをしたり、本人へ声を掛けてから入室するようにしている。個人情報の取り扱いについても十分に注意をしている。	職員は利用者一人ひとりの人格を尊重した言葉遣いに努めているほか、居室に入る時には必ずノックをしたり声かけをしてから入室するなど、プライバシーに配慮している。 個人情報の書類は事務所の鍵のかかるロッカーに保管し、情報漏洩に留意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の中で本人の希望や思いを察し自己決定が出来るような声掛けや環境作りなど、一人ひとりの能力に合せた声掛けを行い、自分の意思が反映させられるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れはあるが、一人一人の生活リズムに配慮して起床・就寝・食事など本人のペースに合わせて対応するよう心がけ、日々の生活を楽しく過ごすことが出来るよう声掛けや場面を工夫し、自分らしさを引き出せるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的にカットボランティアの方に来所して頂き散髪をして頂いている。身支度については、個人の好みを尊重しながら職員と共に服を選ぶなどの日々支援している。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	本人のペースに合わせて無理のない程度に下膳や盛り付けなどの手伝いをしてもらえるよう支援している。又、自分のペースで食事を摂ることが出来るような雰囲気作りに努めている。	食事は近隣にある同一法人の通所介護事業所で作られ、事業所ではご飯とみそ汁を用意している。 職員は利用者の状態に合わせて、刻み食やペースト食を提供している。 利用者はテーブル拭きや後片付けなどできる範囲で役割を担っている。 事業所の行事の時は、管理者の実家に利用者と職員で野菜を貰いに行き、新鮮な野菜などで特別食を利用者と職員で一緒に作っている。 誕生会には家族等と一緒にケーキを作って祝っている。 月2回手作りおやつを利用者と職員で作り、利用者の楽しみとなっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養のバランスのとれたメニューを提供し、一人ひとりの状態に合わせて食事形態を変えて提供している。食事の摂取量・水分摂取量は個別に記録をして夜間帯も状態に合わせて水分補給を行うなどの支援をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを実施し、口腔内の清潔を維持できるよう声掛け・見守り、介助などの個別に合わせた支援を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を活用し個々の排泄パターンを把握しながら声掛けやトイレ誘導を行っている。失敗してしまうようなことがあってもさりげなく対応して不快感を取り除いている。	職員は排泄チェック表で利用者の排泄パターンを把握し、利用者一人ひとりに合ったトイレ誘導をしているほか、リハビリパンツを使用して排泄の自立に向けた支援をしている。 職員は利用者が失禁した場合は周囲に気付かれないように居室や風呂場に誘導し、利用者の自尊心を傷つけないように配慮している。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	利用者様個々の排泄の有無を毎日確認している。便秘傾向が見られる際には乳製品を取り入れたり、その方の身体状況に応じた運動を取り入れて自然な排泄が出来るよう支援している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	本人の希望を基にした表を作成して入浴をしているが、当日の体調や気分も考慮している。安全性を確保するため場合によっては二人介助で行うこともある。 季節感を味わっていただくために菖蒲湯や柚子湯などを楽しんでいただく工夫をしている。	入浴は基本的に週3回としているが、利用者の希望にそっていつでも入浴が可能となっている。 入浴を拒む利用者には、職員が時間をおいて声かけをしたり、職員を替えて声かけをし、無理なく入浴ができるよう支援している。 菖蒲湯や柚子湯などで季節感を味わったり、入浴剤などで変化を付けて入浴が楽しめるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜逆転しないよう配慮しつつ、居室やソファなどで休息できるようにしている。又、一人で過ごせる時間も大切に、室温などにも気を配り快適に過ごせるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人別に処方箋をファイルに綴じていつでも確認ができるようにしている。薬の内容に変更があった際には申し送りノートに記載したり、朝、夕の申し送りで伝えるようにしている。また、誤薬や飲み忘れが無いよう職員が名前を確認して手渡して内服を確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様の能力に応じて掃除や洗濯物たたみ等、各自に合った役割を持っていただいている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者様の希望や身体状況にあわせて散歩をするなど日常的な外出支援を行っている。又、季節行事を大切にし、地域行事へも積極的に参加できるように支援している。その他、外気浴なども多く実施してなるべく外へ出る機会を持つようにしている。	管理者や職員は利用者と一緒に花見やブルーベリー摘み、近隣にある同一法人の通所介護事業所の納涼祭、地域の夏祭りなど季節感のある行事を多く取り入れた外出を支援している。 天気の良い日には利用者と職員で事業所の周りを散歩したり、事業所の庭にテーブルと椅子を置いてお茶の時間を楽しむなど、気軽に外気浴ができるよう支援している。 利用者が買い物を希望した場合は職員が付き添うほか、利用者の希望を家族等に伝え、家族等の協力を得て外出ができるよう支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣いを預かり施設の金庫で保管している。買い物の際には職員が付き添い状況に合わせてお金を所有し必要な物を購入できるように支援している。また、家族へは毎月、請求書と共に収支決算を報告している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や知人などとのつながりが保てるよう電話や手紙など本人の希望に添えるよう支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、利用者様の使い慣れた家具などを設置するようにしている。共有空間は、居心地良く生活が出来るよう温度管理や環境整備に配慮している。玄関先には季節の花を植えたり、メダカなどの生き物を飼うなどしている。	居間は大きな窓から多くの採光が取り入れられ、明るい環境となっている。 居間にはグランドピアノやソファ、テレビが置かれ、利用者が居心地よく寛げる空間となっている。 居間の壁に職員がキルトで作ったバスタオル2枚程の大きさのカレンダーを飾り、一目で日付と曜日が判るよう工夫している。 風呂場やトイレに手すりを設置しているほか、転倒防止のため脱衣所に縁台や椅子を置くなど、利用者の安全に配慮している。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者の状態や状況に合わせて、ホール内のレイアウトを換えるなどして過ごしやすい空間づくりをしている。又、ウッドデッキにはテーブルと椅子が設置されているため、外でお茶を飲んだり、談笑したりして気分転換が出来るようにしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自分らしく生活して行けるよう永年愛用してきた物や家族との思いでの物を持ち込んで居心地のよい空間作りを行っている。	居室入口には一目で部屋が判るように利用者の似顔絵や写真など、思い思いの工夫がされた表札が下がっている。 居室にはエアコンや整理筆筒、カーテン、ベッドが備え付けられている。 利用者は家族等と相談しながら使い慣れたタンスや馴染みの物品を持ち込んでほかに、家族の写真を飾ったり仏壇を置いたりして居心地よく暮らせるよう工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	段差等の無い作りとなっている。各居室には表札を付けて自分の居室が分かるようにしている。本人の状態に合わせてベットやタンスなどの配置を換えるなどして、安全に生活が送れるような環境作りをしている。		

V アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○ 1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○ 1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○ 1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ毎日のように <input type="checkbox"/> 2, 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3, たまに <input type="checkbox"/> 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="checkbox"/> 1, 大いに増えている <input type="radio"/> 2, 少しずつ増えている <input type="checkbox"/> 3, あまり増えていない <input type="checkbox"/> 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての職員が <input type="checkbox"/> 2, 職員の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 職員の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2, 家族等の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 家族等の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない

(様式4)

目標達成計画

事業所名 グループホームたんぽぽ

作成日 平成25年3月15日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1		看取りはしない方針であることを明文化し、利用者や家族等に説明するとともに、同意を得ることを期待する。利用者が重度化に備えて全職員が対応できるよう研修を実施することを期待する。	重要事項の改定。重度化への対応については勉強会実施予定。	重要事項へ看取りを行わないことを記載し、契約時に家族へ説明をして同意を頂くこととする。重度化への備えとして全職員を対象とした勉強会を定期的に開催する。	2ヶ月
2		自然災害を想定した避難訓練を実施することを期待する。食糧の備蓄品は事業所敷地内に保管場所を確保し、事業所独自に保管する事を期待する。	自然災害を想定した避難訓練も開催する。食糧備蓄場所の確保	年2回の避難訓練時に自然災害発生想定の実施する様にする。食糧備蓄については、専用の物置を設置して備蓄する。	6ヶ月
3		運営推進会議に毎回市職員又は地域包括支援センター職員の参加が得られるよう再度全委員で開催日を話し合うことを提案する。地域包括支援センター職員が運営推進会議に参加できない場合は変わりの市職員が参加することが望まれる。活発な会議になるよう事前に委員に議題を知らせておくなどの工夫をし、サービス向上に活かせるような運営推進会議になることを期待する。	自治会代表の継続的な参加の実現と市職員の毎回の参加。	自治会へは毎回の会議に自治会の代表者が参加して頂けるよう自治会長へお願いをしています。また、自治会総会で運営推進会議参加役員の設定も依頼しています。現在の所、返事は頂けておりませんが、今後の会議開催は平日開催として、市職員の毎回の参加をお願いしている。	今年度中
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。